

ケーブル技術スタッフの機器チェック!

日々開発されるケーブルテレビ関連機器を、技術スタッフが
厳しい目でチェック! 実用性に焦点を当てて報告します。

No.
127

レンズフード

豊島ケーブルネットワーク(株) 技術部 部長 上山裕史
今号ではレンズフードを紹介します。

私たちケーブルテレビ局の技術者は、ブライマリーIP電話やインターネットなどミッションクリティカルな双方向アプリケーションの増加により、設備の安定動作に目を光らせています。

今回はスペクトラムアナライザ管面の記録に便利なレンズフードを紹介します。撮影に使うのは一般のデジタルカメラ(デ

ジカメ)や携帯電話・スマートフォンのカメラ機能です。

レンズフードの外観を写真1に示します。今回はレンズフードを黒色厚紙で手作りします。黒色は光を反射しないので、撮影対象のスペクトラムアナライザ管面に写り込みを少なくします。レンズフードの縦横はスペクトラムアナライザ管面寸法と同じとします。高さは初期(2000年発売)のデジタルカメラのマクロ時撮影範囲が10cm～57cmであることから、余裕をみて21cmとしました。これを黒色厚紙から切り出し、

テープで止めて四角柱とし、カメラ撮影用の丸穴を設置しました。

写真2と写真3にレンズフードとデジカメ、スペクトラムアナライザを使用した撮影状況を示します。デジカメのフラッシュをオフとし、マクロ(チューリップマークにする)に設定すると、スペクトラムアナライザの管面はきれいに撮影できると思います。周囲の蛍光灯や光が管面に写り込むことなく鮮明な記録となります。事前事後で記録を残しておけば、実行した作業効果の有効性が確認できます。

今回は手作りによるスペアナレンズフードを紹介しました。スペアナの管面を記録として残しておく、報告書や後の検討に大いに役立ちます。スペアナやオシロスコープの記録を残してサービスの品質向上に役立てましょう。



写真1: レンズフード外観



写真2、写真3: 撮影の様子

